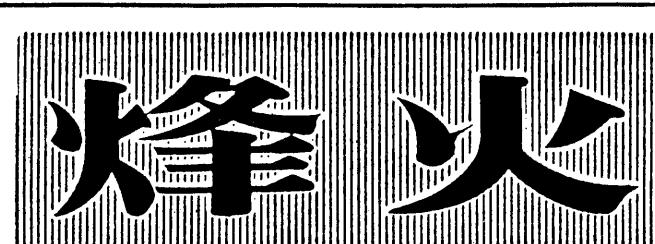


☆帝国主義の侵略反革命を粉碎し全世界の帝国主義を打倒せよ！ スターリン主義との国際党派闘争を組織し、世界プロレタリア革命—世界プロ独立共産主義を組織する世界単一党を国際階級闘争の最前線に創建せよ！

1984年
7月5日
第356号
編集発行人 高木一夫
一部 200円



共産主義者同盟（全国委員会）

- 大阪戦旗社 大阪市大淀区本庄東2丁目2の31
とみやビル15号 Tel(06)371-3706
- 郵便振替 大阪3-63333 高木一夫
- 銀行口座 第一勧銀 515-1058150 高木一夫
- 東京戦旗社 東京中央郵便局 私書箱1114号



●はじめに

六月一四日、トマホーク配備阻止闘争の大衆的高揚のさなか、横須賀港にトマホーク配備予定艦である米原子力潜水艦タニーが強行入港した。日米帝国主義は六月トマホーク配備から九月全斗煥来日をもって、す

さまじい侵略反革命戦争の準備をすすめている。トマホークの配備は、米ソ核戦争の危機を増大させるだけではない。それは光州蜂起四周年を迎えて不屈にたたかう南朝鮮労働者人民の闘争など、アジア全域で燃え

反トマホーク闘争の総括 右翼日和見主義と闘い の前進をかちとれ！



▲ 横須賀闘争の先頭に立つ全国労政(6・17)

▲ 九百を結集した京都集会(6・7)

全国の労働者人民諸君！ 治委員会建設の三つの戦略的課題を全力をあげて推進してきた。いの渦中で、多くの先進的労働と、戦後史を画する攻撃の嵐のなかで、わが共産主義者同盟は

夏期カンパを訴える

トマホーク配備、全斗煥来日と、戦後史を画する攻撃の嵐のなかで、わが共産主義者同盟はこのかん、階級的労働運動の陣型建設、大衆的政治統一戦線建設、ロレタリア階級の前衛党をめざして、ひきつづきこれを全国でおこなう。党の

前進なくして、階級闘争の前進

いであった。われわれは眞のプロレタリア階級の前衛党をめざして、ひきつづきこれを全国でおこなう。

共産主義者同盟（全国委）

あがる反帝民族解放闘争を威圧し、解体することをねらったものである。また全斗煥来日と天皇・全斗煥会談をもって日帝は、戦前の朝鮮植民地支配を反動的に清算し、危機に立つ全斗煥政権のテコ入れと南朝鮮新植民地主義支配の強化をなし、天皇の名によって日本労働者人民を、全斗煥政権の擁護と朝鮮侵略反革命戦争へ、排外主義的に組織しようとしている。

これとどう立ちむかうのか。核戦争をふくむいつさいの帝国主義戦争は、全世界の帝国主義を打倒することなしに、根絶することはできない。とりわけ帝国主義本國であるわが国の労働者人民にとっては、自國帝国主義をその戦争準備もろとも打倒していくことが、全世界の労働者人民から課せられた第一級の任務なのだ。そして賃金奴隸であるがゆえにブルジョアジーとの非和解的対立関係にあり、自國帝国主義の暴力的打倒、武装蜂起とプロ独権力の樹立をもって社会主義革命に勝利する以外に解放されることのないプロレタリア階級こそが、あらゆる被抑圧階級層人民をひきいて、このたたかいを最後までおしすすめなければならない。労働運動そのものを解体し、労働者階級を戦争へと動員せんとする帝國主義的労戦統一攻撃が吹きあれているなか、プロレタリア階級の進むべき道はここにしかありえない。

われわれはここに数ヶ月にわたったトマホーク配備阻止闘争の総括を提起する。全国の先進的労働者学生はこの総括を共有し、ともにプロレタリア政治闘争建設に決起されんことを訴える。

トマホーク配備をめぐって、八二年の反核運動の高揚に匹敵する大衆的流動と広範な決起が生み出された。社共、とりわけ日共は近年にない大規模な闘争設定をおこなった。また「トマホークの配備を許すな／全国運動」の主催による六・一七横須賀集会には、予想を上回る五〇〇〇名におよぶ人々が結集した。それはトマホーク配備への大衆的危機意識の深さを示すものであった。

反トマホーク闘争は、わが国におけるプロレタリア政治闘争建設をめぐる次の三つの現状をくつきりと描きだした。

第一に、現下の自然発生的反戦反核運動は、帝国主義によるイデオロギー支配と社共の政治的影響のもとで、たんに社会主義（武装蜂起とプロレタリア独裁）の要求から遠くへだてられているだけではなく、放置するならば容易に排外主義にからめとられる危

險性にとりまかれていることである。

反戦反核の大衆的気運それ自身は、今日の世界的な戦争準備への危機感によつて日々再生産され、弱まることはない。しかしそれは自國帝国主義打倒と反帝民族解放闘争への国際主義的連帶という、帝国主義本國プロレタリアートとしての階級的任務をなするもののへと脱皮させていく目的意識的指導なしに、けつしてプロレタリア政治要求へと自然成長するものではないのである。反トマホーク闘争をめぐつてあらわれた全国的政治運動は、先進的プロレタリアートにたいし、この流动ど切りむすびつつも、けつしてそれに溶解することのない大衆的プロレタリア政治闘争の組織化を、あらゆる場所において推進するという、きわめて実践的な課題をつきつけたのであった。

第二に、大衆的プロレタリア政治闘争建設にとっての社共・総評政治闘争の反動的役割りが、よりいっそう明らかになったことである。

社共は「日本を米ソ核戦争の戦場にするな」と呼び、ひたすら「日本の平和と安全」のみを乞い願う立場から反トマホーク闘争を組織した。とりわけ日共は「日本民族存亡の危機をかけた国民的対決」なる立場をうちだし、自國帝国主義の侵略反革命戦争準備から労働者人民の目をそらし、排外主義の側へ組織していく役割を果たした。一方、社会党・総評は「ニュー社会党」路線と帝国主義的労戦統一のいっそうの進行のもとで、従来の規模からいえば大幅に組織化をネグレクトした。「労戦統一」をめぐつては総評・民間から離反しつつある総評内左派労働者の多くは、党・総評の死せる組合主義的政闘の枠組みにしばりつけられている現状が浮き彫りになつた。

第三に、社共・総評政治闘争に反発する労働者の多くは市民運動以外にたたかう場をもちせず、そのもつとも先進的部分でさえもが市民運動の波及力に期待し、その内部に無批判にとどまっているという現状が明らかになつたことである。とりわけ労働情報グループは、労働者の独自の結集を組織し、その発展をかちとるためには、まず社会党・総評への鮮明な批判と分歧を前提としなければならないという点をあいまいにしたまま、市民運動への合流にみずから進路をとってきた。そればかりかこの現状を「遅れた労働運動が進んでいた市民運動に依拠するのは当然」とばかりに肯定し、固定化する立場まで生みだされていることにわれわれはけつして組みしない。

「トマホークの配備を許すな／全国運動」に代表される市民運動とその統一戦線は、次の一侧面においてわが国階級闘争の前進にむすびつくものではないといえる。

落する社共――排外主義へ転

その一側面は政治要求に関じてである。それは彼らの現在かかげる「日本を核の戦場にするな」という主張が、社共のそれとまったく変わらないことにとどまらない。彼らのかかる真に人間らしい生き方を選びとする未来へかける「安保によって保障された軍事経済大運を一市民的願望へと保守的に固定し、自國帝国主義との闘争とプロレタリア国際主義にむかって発展していく道をとざしている点が、根本的誤りとして指摘されるべきである。たしかに全国運動もまた「国際連帶」をいう。しかしそれは「ともに米ソ核戦争の犠牲者となるアジア民衆との連帶」なるものである。米ソ核戦争の危機を理由に、日本民族が帝国主義抑圧民族であることを消し去るこのようないいが、よりいっそう明らかになったことである。

もうひとつの一側面は、政治要求のみならずその運動そのものが、参加した労働者・市民の反戦反核意識を階級的に発展させていくに足る契機を内包せず、反核運動の横の拡大それが自身を自己目的とするごとに固定されてしまつてることである。

以上三点の現状を突破していくことが、すべてのたたかう労働者・学生に課せられた緊要の責務である。プロレタリア階級がいまだ革命の要求から遠くへだてられ、社共や市民主義運動のくびきのもとにおかれている現状を基礎から変革し、武装蜂起―プロ独へと前進させていくためのプロレタリア政治闘争と、大衆的プロレタリア政治統一戦線の形成にただちに着手しなければならない。

京都において昨年、レーガン闘争をもつて洛南労組をはじめとした階級的労働運動を建設せんとする労働者を中心とした京労実のたたかいは、いまだ一地方的なものではある。しかしそれは社共との分歧はもちろん、いささかも俗流市民主義運動に押扼することのない、眞の大衆的プロレタリア政治統一戦線建設の第一歩にほかならない。われわれはこれを支持し、全国へおしひろげるために全力をあげねばならない。

大衆的プロレタリア政治闘争の建設にたい

右翼日和見主――義との分歧

火 烽

して、第四インター、プロ青同、日向派などとその運動の限界を批判指摘するのではなく、これを賛美し体系化することを自己のゆいいつの任務と心得ている。大衆的プロレタリア政治闘争建設の事業の前進にとって、これら右翼日和見主義との党派闘争は、先進的労働者・学生すべての不可避の任務である。

プロ青同は現下の市民主義運動のもっとも保守的・右翼的なあらわれを、みずから先頭を切って組織する役目を買っていている。彼らは「米ソ支配圏のどちらにも属さない日本を」「アメリカとの運命共同体を打破せよ」と叫び、「赤と緑の結合」なる珍妙なスローガンをかかげて労働者の単一の階級闘争の組織化に敵対し、そして「反トマホークで一致するなら日共とでもいっしょにやる」と公言してはばかりない。

彼らはその本性上、共産主義者の組織ではなく、小ブルジョア政党の一種にすぎない。それは共産主義のための党建設とそのための党派闘争にとっては、とるに足りない対象である。しかし彼らが現に市民運動のなかに巣喰い、労働者人民の最初の政治決起を永遠にプロレタリア政治要求から切断し、保守的・右翼的に固定し、のみならず大衆的プロレタリア政治統一戦線を、市民主義統一戦線へと変質させんともくろむ以上、われわれはこれる真正面から粉碎するであろう。

第四インターはどうか。彼らは世界党を自称し、労働者階級の立場に立つかのようにふるまう点で、プロ青や俗流市民主義者とはことなる。彼らは世界革命を口にし、帝国主義国と労働者国家の区別を、また労働者の階級基盤を問題にする。しかしながら彼らが反核運動を階級的に領導しうる部分であるか否かは、すでに明らかである。彼らは俗流市民主義にとり入り、大衆的プロレタリア統一戦線の解体を要求する点で、プロ青と何ら変わらない。彼らはそのうえで、次の三点において自己と市民主義のちがいを主張する。第一に彼らは、反トマホーク闘争においては米帝との闘争が重要だと主張して、市民主義と一線を画そうとする。しかしそれは自国帝国主義打倒の任務を永遠の彼岸に追いやるペテンである。彼らは「米帝は世界最大の帝国主義であり、日帝はこれに従属しているだけ。米帝との闘争が第一義である」と憶面もなく主張する。これはレーニン主義自國帝國主義打倒の任務を否定し、ブルジョア軍事力量にすりかかるものである。考えてみよ！レーニンが第一次帝国主義戦争にさいし、ロシアのプロレタリアートは自國政府の敗北を願わねばならないとして革命的祖国敗北主義をかかげ、帝国主義本國プロレタリアートの第一級の責務として自國帝国主義打倒をかか

げたのは、「どの帝国主義がいちばん悪いか」なるブルジョア軍事力学とは無縁の、徹頭徹尾プロレタリアートの階級形成につらぬかれたものであった。この実践的立場に立ちきるこなしに帝国主義本國プロレタリアートが排外主義への転落から自己を分岐させ、他国の労働者人民と結合していく道はけつしてありえないからである。この点を否定する第四インターの主張は、労働者人民を排外主義へと屈服させるものにほかならない。

第二に彼らは、「労働者国家の核武装無条件支持」「帝国主義の一方的核軍縮を」という主張をもつて、市民主義と分岐した階級的視点であるという。この主張が、ソ連共産党の反プロレタリア・反国際主義の全面的美化と擁護であることはいうまでもない。ここで彼らがこの問題を持ちこむことによって付与しようとしている「階級性」なるものの根本的誤りを指摘しておく。彼らはその内実を祖国敗北主義とプロレタリア国際主義であるといふ。しかし自國帝国主義の打倒を日本プロレタリアートの階級形成とは無縁のブルジョア軍事力学から語る彼らにとって、労働者国家との関係で持ちだされる祖国敗北主義とは、「むこうは労働者国家でこっちは帝国主義国家だからこっちが悪い」という程度のものである。またプロレタリア国際主義とは、自國帝国主義の侵略反革命戦争準備との闘争とはまったく関係のない「一部特權官僚の支配からの解放を求める労働者国家内の闘争の無条件支持」といった、およそ帝国主義本國プロレタリアートの任務とはほど遠い、超客観主義的で非階級的なものにはかならない。

第三に彼らは、反トマホーク闘争をつうじて「反帝労農階級闘争」なるものを形成するとして、市民そのものを主体と考える部分との相違を主張する。しかしそもそも反帝労農階級闘争なるものは、帝国主義に反発するあらゆる個別階級層とその運動の横の連合以外の何ものも意味しない。だから彼らはわれわれが、プロレタリア階級闘争とその組織の建設にむけて現存する運動と組織を流动させ、脱皮させ、改組发展させることをおしどめ、あるがままの運動と組織を並列・固定していくのである。

総じて彼らは、市民運動のなかで階級的言辞を弄しながら、たたかいを非マルクス・レーニン主義的に変質させてるのである。これら第四インターやプロ青同とは一程異なるかにみえる日向派はどうか。たしかに彼らは第四インターを「無党派市民主義」と批判しはする。そして反トマホーク闘争を「安保・日韓体制打倒の実力闘争」として闘おうと呼びかける。しかしこの「安保・日韓体制打倒の実力闘争」なるものは、彼ら自身が六・一七集会において「六・一七は大成功であった」とくりかえし、あとはこれに日向派が

げたのは、「どの帝国主義がいちばん悪いか」なるブルジョア軍事力学とは無縁の、徹頭徹尾プロレタリアートの階級形成につらぬかれたものであった。この実践的立場に立ちきるこなしに帝国主義本國プロレタリアートが排外主義への転落から自己を分岐させ、他国の労働者人民と結合していく道はけつしてありえないからである。この点を否定する第四インターの主張は、労働者人民を排外主義へと屈服させるものにほかならない。

このよう二枚舌を使いつづけたいのなら、どうするがよい。大衆的プロレタリア政治統一戦線の前進は、容赦なく誰が真にプロレタリア階級の利益に立脚してたたかっているのかを大衆的に明らかにし、諸君のペテン師的誤りを指摘しておく。彼らはその内実をひきいて、第四インター、プロ青などを階級闘争の舞台から追放・一掃する決意である。日向派が彼らと同じ沼地へと歩むのならば、われわれは断固として必要なたたかいを貫徹するのみである。

実力闘争をつけ加えることだと主張したことにより、明らかなように、市民主義運動の限界に一指もふれないままその先頭で実力闘争をやるという、市民主義運動の左の補完物以外の何ものをも意味しないものである。現に彼らは昨年レーガン闘争の過程から、反戦反核の自然発生性を保守的・右翼的に固定する右翼日和見主義、俗流市民主義とはまったくたかわらず、市民主義統一戦線のなかに安住し、逆にプロレタリア政治闘争建設のたたかいに隠然・公然と敵対してきたのである。

このよう二枚舌を使いつづけたいのなら、どうするがよい。大衆的プロレタリア政治統一戦線の前進は、容赦なく誰が真にプロレタリア階級の利益に立脚してたたかっているのかを大衆的に明らかにし、諸君のペテン師的誤りを指摘しておく。彼らはその内実をひきいて、第四インター、プロ青などを階級闘争の舞台から追放・一掃する決意である。日向派が彼らと同じ沼地へと歩むのならば、われわれは断固として必要なたたかいを貫徹するのみである。

京都労働者実行委は全斗煥来日阻止を第三回闘争として全力をあげることを決定した。われわれは全国労政をおしたててこのたたかいを首尾一貫して領導する。そしてトマホーク配備阻止闘争のなかで構築してきた、全国に大衆的プロレタリア政治統一戦線を波及させていくための橋頭堡をさらにうちきたえ、全国的な陣形の建設に大胆にふみだしていく。すべてのたたかう労働者・学生諸君が全国労政に結集し、わが共産主義者同盟と結合してこの事業の先頭に立たれんことを強くよびかける。

全斗煥来日阻止闘争に決起せよ！

総力で全斗煥 来日阻止へ

今秋の全斗煥の来日は、あらゆる政治勢力により鋭くプロレタリア国際主義と自國帝国主義への態度を問うであろう。全斗煥来日をめぐって社共は排外主義の陣営への傾斜をいつそう深めている。そして一部右翼日和見主義のこれへの合流と追随が始まっている。全斗煥来日阻止闘争がこのような社共・右翼日和見主義の主導下で組織されるならば、それはまちがいなく、決起した労働者人民を社共の組合主義的・排外主義的政治闘争のもとにより強くしばりつけ、帝国主義ブルジョアジーの排外主義への屈服の攻撃に、全面的に道をひらくものとなることは疑いようもない事実である。

京都労働者実行委は全斗煥来日阻止を第三回闘争として全力をあげることを決定した。われわれは全国労政をおしたててこのたたかいを首尾一貫して领导する。そしてトマホーク配備阻止闘争のなかで構築してきた、全国に大衆的プロレタリア政治統一戦線を波及させていくための橋頭堡をさらにうちきたえ、全国的な陣形の建設に大胆にふみだしていく。すべてのたたかう労働者・学生諸君が全国労政に結集し、わが共産主義者同盟と結合してこの事業の先頭に立たれんことを強くよびかける。

6・7 京労実闘争前進す 決起集会に 900

六月七日、京都円山野外音楽堂に階級的労働運動を建設せんとする労働者、労働組合を中心に、日韓戦線、学生戦線、部落解放運動など二八団体、九〇〇名を結集して京都労働者実行委主催のトマホーク極東配備阻止／全斗煥來日阻止／京都総決起集会がかちとられた。今回の結集は、昨年レーガン志、全国労政事務局、戦争問題を考える会より五・三〇闘争の地平労実運動の前進と定着が進んでいたことを明らかにした。

る。われわれはこのような傾向に反対し、広範なトマホーク配備への怒りを朝鮮—アジアの民族解放闘争との連帶、全斗煥来日阻止、反安保、中曾根政権の戦争準備とのたたかい、労働者階級の権力に向けていくことこそ必要である」と京労実闘争の前進方向を提起し、「六月京労実闘争の成果を九月全斗煥来日阻止闘争にひきつぎ発展争をおえた。

わが労政部隊は各所で機動隊とぶつかりトマホーク、全斗煥に対する怒りを爆発させた。解散地点の市役所前では、五日ステ貼り中止に不当逮捕された同志が釈放され、たその足で合流し決意表明を行なった。このうち、い、九月全斗煥来日阻止闘争に全力で決起することを誓い六・七闘争をおえた。



政と学生部隊

われわれは、このトマホーク極東配備阻止のたたかいの過程をとおして大きな前進をかちとった。それは京都労働者実行委によるプロレタリア政治闘争の定着化と拡大であり、た東京、大阪、京都における労政のたたかいの前進である。

な拍手で確認された。

この成果を、さらに九月全斗煥来日阻止闘争に向かって前進させつづける決意である。たたかう労働者は全国労働者政治委員会に結集し、プロレタリア政治統一戦線を建設せよ。社共・右翼日和見主義の排外主義から労働者人民を解き放て。

全
国
で
反
ト
マ
農
場
手
が
爆
発

で阻止せよ！

民族解放―社会主義革命に連帶し
九月全斗煥来日―天皇会談を粉碎
することは、自己の第一級の国際
主義的責務である。

帝国主義の野望

帝国主義の野望

金斗煥の来日が、いよいよ九月上旬（六日）にしづらりこまれてきました。日韓両政府は、七月六日の公式訪韓をとうして、来日日程を公式発表しようとしている。すでに



たかう延世大の学生(4月19日)

韓の労働者の団結が強化されねばならない」と結んだ。

大阪においてつみあげてきた実行委のたたかいを土台に、われわれは、必ずや関西におけるプロ・タリア政治統一戦線へと発展させる決意である。先進的労働者は、労政に結集しともこの事業を抱い、社共・右翼日和見主義から業的にその影響力を解き放たねばならない。

6.12

東京

ることとたたかい、九月全斗煥來
日阻止闘争を帝国主義本国プロレ
タリアートの國際主義的任務をか
かげてたたかわねばならないこと
が訴えられ、市民主義的政治闘争
との分岐を鮮明にした。

これをうけて日大（銀ヘル）の
アピールと各地の労政からの決意
が表明され、六・一七横須賀現地
闘争への決意をうちかためた。首
都圏における階級的労働運動の陣
形建設は急務である。東京労政は
その先頭でたたかう決意である。

革命政権の登場を最初に支持したのは日帝であった。

政権についた全斗煥は、八一年二月、訪米し、「韓国は反共の砦」とうちあげ、米帝の全面的認知をとりつけた。その後、日帝一中曾根が政権発足後ただちに訪韓し、全斗煥の来日を要請、ひき続く訪

米時に「日本列島不沈空母化」「四海峡封鎖」を宣言したのである。これらをうけて米帝一レーガンは、昨年来日時の国会演説で「三本の矢」＝日米韓の軍事同盟化を公言した上で訪韓し、「韓国

の安全が北東アジア……同時にアメリカの安全にとって死活的な米韓共同声明を発表した。訪韓時にレーガンはソウルから全米向けラジオで「安保の領域では日本・韓国両国が(アメリカとともに)軍事分担について重要な分担を約束」と、その意図をあからさまに述べたのである。

南朝鮮における反帝民族解放闘争一八〇〇年光州蜂起を鎮圧するこ^トによって登場した全斗煥の訪米に始まり、日帝一中曾根の訪韓・訪米、米帝一レーガンの来日・訪韓とつみあげられてきた日米韓の

この全過程こそ、日米韓反革命軍事同盟の完成にむけた動きに他ならなかつた。

しかも、核巡航ミサイル・トマホークの極東配備をテコに、この日米韓反革命軍事同盟をNATOともに、チームスピリットなどのなみの核安保体制へと強化するとともに、

プロレタリア国際主義の旗をうちふり 九月全斗煥来日を総力

設置と引き続ぎ、ハ五年 日韓国
交正常化二〇周年 キャンペーンを
ききつつ、この間のKAL機事件
ラングーン事件を利用しての反共
排外主義煽動を柱にした「国民的
基盤」の形成に全力をあげてきた
全斗煥一天皇会談こそその要であ
る。

金三
この間の帝国主義計略による中国をまきこんだ南北分断固定化ークロス承認策動を、日帝自身が全斗煥と直接確認しうち固めてゆくことにある。本年一月、朝鮮労働党の「三者会談」提案をもって開始された流動のなかで、日米両帝国主義はそれぞれ直接、中国の承認をとりつけつつ南北分断固定化ークロス承認策動を一步おしすすめてきた。それは、南朝鮮階級闘争の前進を孤立させ、圧殺していくことをねらったものである。日帝は自己の南朝鮮新植民地主義支配の確立の担保として、これを全斗煥来日をとおしてうち固めんとしているのである。

先進的部分が、光州蜂起の敗北の教訓を徹徹尾くみつくすることによって、非合法組織の建設を含む前進を開始しているのである。

「韓国学生運動の展望」という地下文書は、光州蜂起の敗北を「自然発生的蜂起の限界」と総括づけ、「蜂起は組織によつて準備され、運動員され、指導されなければならない」といきり、「全民衆的蜂起」の重要性をのべている。さらに「学生運動は……先導体であり主动体ではない」と規定し「学生運動から排出された運動家が前衛組織の萌芽になることはできる」と、たたかいの指導階級の問題、前衛組織の問題を「蜂起」の組織化にむけて言及している。

南朝鮮の反帝民族解放闘争は、日米帝と全斗煥軍事独裁政権のもとで鉄のごとく鍛えられていくこうとしている。それは反日帝、全斗煥打倒闘争を、武装闘争、革命組織建設、社会主義の道へと歩む先進的部分を生み出しつつ、日帝

米韓軍事同盟に日本を巻きこむな
というものであり、光州蜂起のと
きに「日本を第一」の光州にするな」と
叫んだのと同様の徹頭徹尾排外
主義的立場なのである。

かかる社共に対して、右翼日和
見主義・俗流市民主義潮流は、ト
マホーク闘争と同様に、反社共ブ
ロレタリアートの多くが分断され
た一市民としてしか政治登場しえ
ていないわが国階級闘争の否定的
現状に指先もかけずに、市民主義
的「日韓民衆連帯」を対置しよう
としている。だがそれは、自国帝
国主義の侵略反革命戦争準備との
闘争、反帝民族解放闘争への犠牲
的連帯、この二点を実践的要とす
る抑圧民族の一員たる日本プロレ
タリアートのかかげるべき國際主
義とは、まったく別個の代物でし
かない。彼らは、南朝鮮プロレタ
リアートの社会主義革命への前進
という苦闘と萌芽には目もくれず、
たたかいを平板な民衆一般の連帯
へと解体しようというのだ。

國際主義的連帶

先進的部分が、光州蜂起の敗北の教訓を徹徹尾くみつくすことによつて、非合法組織の建設を含む前進を開始しているのである。

「韓国学生運動の展望」という地下文書は、光州蜂起の敗北を「自然発生的蜂起の限界」と総括づけ、「蜂起は組織によつて準備され、運動員され、指導されなければならぬ」といきり、「全民衆的蜂起」の重要性をのべている。さらに、「学生運動は……先導体であり主动体ではない」と規定し「学生運動から排出された運動家が前衛組織の萌芽になることはできる」と、たたかいの指導階級の問題、前衛組織の問題を「蜂起」の組織化にむけて言及している。

南朝鮮の反帝民族解放闘争は、日米帝と全斗煥軍事独裁政権のもとで鉄のごとく鍛えられていくこうとしている。それは反日帝、全斗煥打倒闘争を、武装闘争、革命組織建設、社会主義の道へと歩む先進的部分を生み出しつつ、日帝

米韓軍事同盟に日本を巻きこむな
きに「日本を第二の光州にするな」
というものであり、光州蜂起のと
く叫んだのと同様の徹頭徹尾排外
主義的立場なのである。

かかる社共に対して、右翼日和
見主義・俗流市民主義潮流は、ト
マホーク闘争と同様に、反社共普
ロレタリアートの多くが分断され
た一市民としてしか政治登場しえ
ていいわが国階級闘争の否定的
現状に指先もかけずに、市民主義
的連帯、「日韓民衆連帯」を対置しよう
としている。だがそれは、自国帝
國主義の侵略反革命戦争準備との
闘争、反帝民族解放闘争への犠牲
タリアートのかかげるべき国際主
義とは、まったく別個の代物でし
かない。彼らは、南朝鮮プロレタ
リアートの社会主義革命への前進
という苦闘と萌芽には目もくれず、
たたかいを平板な民衆一般の連帯
へと解体しようというのだ。

反トマホーク闘争は広範な反戦
反核の大衆的気運を生みだした。
われわれはこの反戦反核の決起を
プロレタリア政治要求のもとに固
く結合させ、社共・右翼日和見主

社会の排外主義

本国内プロレタリアートの連帶を切望している。これに応えきることこそ抑圧民族内プロレタリアートの絶対的な責務であり、国際主義的任務である。

米韓軍事同盟に日本を巻きこむなきに「日本を第一」の光州にするなど叫んだのと同様の徹頭徹尾排外主義的立場なのである。

かかる社共に対し、右翼日和見主義・俗流市民主義潮流は、トマホーク闘争と同様に、反社共プロレタリアートの多くが分断された一市民としてしか政治登場しないわが国階級闘争の否定的現状に指先もかけずに、市民主義的「日韓民衆連帯」を対置しようとしている。だがそれは、自國帝国主義の侵略反革命戦争準備との闘争、反帝民族解放闘争への犠牲的連帯、この二点を実践的要とする抑圧民族の一員たる日本プロレタリアートのかかげるべき國際主義とは、まったく別個の代物ではない。彼らは、南朝鮮プロレタリアートの社会主義革命への前進という苦闘と萌芽には目もくれず、ただかいを平板な民衆一般の連帯へと解体しようというのだ。

反トマホーク闘争は広範な反戦反核の大衆的気運を生みだした。われわれはこの反戦反核の決起をプロレタリア政治要求のもとに固く結合させ、社共・右翼日和見主義・俗流市民主義との分岐をひきつていかねばならない。全斗煥

うねりは、全土の大学をおおい、機動隊との激しい投石戦がたたかぬかれ、光州蜂起負傷者の車イスを先頭としてたたかいがくりひろげられた「指導休学」なる強制徵集制度をもって学生活動家を軍隊内で監視

社会党内では、全斗煥来日に対する態度をめぐって賛否両論がとびだし激しく動搖した。結局五月三一日の中執委において、石橋は「朝鮮半島情勢が新しい展開をみせており、この時期に、大統領を招くべきではないし、来るべきでな

来日阻止闘争は、この広範な反戦
反核の決起を、日帝の侵略反革命
戦争準備との闘争、南朝鮮の反帝
民族解放―社会主義革命への連帶
という、帝国主義本国内プロレタ
リアートの政治要求とその決起へ
と変革しつづける質を内包してた

し、転向強要を行なうという全斗煥の支配の中で、すでに七名の学生が虐殺されている。これらをはじめ、南朝鮮の学生は再々度激しい実力戦を大衆的に組織した。また労働者のたたかいも、八一年一月に強制解散させられた平和市場の清溪被服労組（七〇年代

い」などと、時期尚早論をうちだした。これは、日・米・中の南北分断固定化＝クロス承認策動が進行する中での石橋の「野党外交といふのでなく日本外交を補完する」「日本政府と北朝鮮の仲介をひきうける」という一連の「対韓政策見直し」なる方向の延長にある。

たかわれねばならない。これを工業的に、大規模に組織しつづけるために、大衆的プロレタリア政治統一戦線建設をひきつづき前進させねばならない。

七月安倍訪韓、九月全斗煥来日を阻止する大衆的プロレタリア政 治闘争を全力で組織せよ。

韓國労働運動の先頭をきって、(きた)が再建され、元豊毛紡の労働争議が組織されるなど、再びその動き

もはや社会党は「ニーー社会党」路線の上で、「自衛隊違憲・合法」論に示されるごとく、ブルジ

卷之三

を力強く開始した。そして何よりも、五月一六日に発表された「民主国民宣言」が「米日政府が安保と反共の名で現政権を支持していることを遺憾に思いその政策を排撃する」とのべるよう、反米（帝）反日（帝）全斗煥打倒の全人民的スローガンの中からそ

ヨアジーの同伴者になりはてた。社会党がいう全斗煥来日反対とは、ブルジョアジーと同じ立場からする「時期が悪い」という問題でしかないのである。



本年五月一日、労働省から「男女雇用機会均等法」（略称）が閣議決定され、来年二月からの実施に向け、国会の審議にかけられている。

搾取の強化ねらう均等法

この「均等法」は一部女性管理職、専門職などの声を鳴り物入りで宣伝しながら出されてきたものである。「均等法」はその目的を「雇用の分野における男女の均等な機会と待遇の確保、女子労働者の職業能力の開発と向上、女子労働者の福祉の増進と地位の向上」等とうたいあげている。だが、こ

の実際の狙いは、同年代の男性労働者の半額にも満たないといわれる女性労働者の低賃金について湧き起る声を逆手にとって、女性労働者を効率のよい労働力として差別・選別しながら、徹底的に搾取・支配するためのものに他ならない。

「均等法」は、①事業主の講ずる措置等、②機会均等調停委員会、③労働基準法改正案の三つの骨子によって構成されているが、いずれをとってもブルジョアジーの意図を露骨に示すものである。第一に、「雇用・配置・昇進・解雇」などの措置は、単なる「企

業の努力義務」にすぎず、たとえ問っていた「男女雇用機会均等法」（略称）が閣議決定され、今までの実績からすれば、企業の好き放題となることは火を見るより明らかである。

第二に、「紛争がおこれば関係当事者に勧告する」とある調停委員会は労働大臣が任命する委員によって作られているものである。これは国家的規模での婦人労働者に対する労務課のようなものであり、企業の利益を防衛すると同時に労働力をパート・アルバイトなど

同時に、この競争に耐えられない労働力をパート・アルバイトなどに固定化し、低賃金でこき使おうとするものである。

均等法を粉碎しよう！

女性労働者の再編ねらう

に、婦人労働者のたたかいを全体の労働者のたたかいからますます遠ざけようとするものに他ならない。

「銃後の母」ねらう均等法

第三に、「就業機会を広げるたまには、保護規定の緩和が必要」として、今までたたかいとられてきた婦人労働者の諸権利を奪いとり、男も女も区別なく劣悪な重労働を低賃金で担わせようとするものである。要するに「食べられるだけの賃金がほしければ、それを

資本主義の危機の深まりとともに婦人労働者はますます労働市場にかかりだされつつある。だがこの婦人労働者たちは、私的労役としての家内労働をかかえつつ、その大部分がパート・アルバイトなどの大半がパート・アルバイトなどの不安定な雇用状態におかれ、無権利状態に放置されている。

先進的プロレタリアートは、階級的労働運動の一翼に婦人労働者のたたかいを組織せよ／をかかげ「男女雇用機会均等法」粉碎のたたかいを労働者階級の全體的課題として担わなければならない。



トマホーク、グリーンベレー配備に反対し

5・15 県民大会に一万沖縄

沖縄においては五月一五日、米陸軍特殊作戦部隊配備阻止／トマホーク配備阻止を掲げた県民集会が那覇市与儀公園に一万余の労働者人民を結集してたたかいとられた。「本土」における反トマホーク闘争が大きく社共や右翼日和見主義者によって「日本を核戦場にするな」「日本民族を守れ」と、排外主義的に歪曲させられている中で、沖縄の五・一五集会は、反戦反核反安保を高々と掲げてたたかわれた。これは今日にいたるまで嘗々とたたかい続けられてきた沖縄労働者人民のたたかいの伝統と蓄積があるからである。日米帝の戦争準備のもとで、沖縄基地はどうすることなく強化され続けて

いる。現在でも、三月以降米軍特殊部隊が配備されつづあり、トマホーク配備によって勝連ホワイト・ビーチは核軍港にさせられようとしている。また八重山への軍事基地獲得のための「新石垣空港」着工もまさに目前にせまっている。かかる現実との真向からのたたかいでして五・一五集会はたたかわれたのである。

しかし、社共はいつものことながらこのたたかいを「六月県議選勝利」に収約し、議会主義にねじまげんとしたのである。沖縄労働者人民のたたかいの伝統と蓄積を社共の歪曲から防衛し、さらに発展させるために、社共と分岐したプロレタリアートの政治部隊の創

出がくり返し確認されねばならず、また、それと結合したプロレタリア政治統一戦線建設もたたかう労働者人民の火急の任務である。

5・12 明大 学生共同闘争 たたかわれる

都労働者実行委に結集する青年労働者を中心し沖縄派遣団が組織され、連日各地で交流会などを行つた。

なお、五月一五日を前後し、京都市労働者実行委に結集する青年労働者を中心し沖縄派遣団が組織され、連日各地で交流会などを行つた。

五月一二日、明大駿河台校舎にて、日大（銀ヘル）呼びかけの全国学生共同闘争が四〇〇名もの学生、山谷労働者の結集によって銀ヘル二戦士の獄中・公判闘争のなかたたかいぬかれた。五回目を迎える学生共同闘争は、反憲学連ーファシスト撃滅一掃戦こそが日本学生運動の第一級の任務である。以上、いかなる革命的学生運動をもって対ファシスト戦に勝利していくのかを一層問うものであった。同大学戦線、京産大、淑大社研の学友は、日帝の暴力的打倒と社会主義革命に向けたプロレタリア政治統一級線建設の長大な事業をない、対ファシスト撃滅戦に労働者階級の利害に立ち切つてたかおうと訴えた。